

富山県南砺市

神 成 遺 跡 III

—— 県営ほ場整備事業（担い手育成型）北山田北部地区
に伴う埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告(6) ——

2006年3月

南砺市教育委員会



神成遺跡 8 地区 SD01 出土遺物

序

南砺市の中北部に位置する北山田地区は、山田川左岸の河岸段丘上に位置します。県営ほ場整備事業に伴い平成10年度から試掘調査を行った結果、縄文時代から近世までの様々な遺跡を発見し、多くの歴史的遺産が埋蔵されていることが分かりました。遺跡の大半は盛土により現地保存が図られましたが、用排水路用地及び一部の水田削平部分については平成12年度から本調査を実施し、記録保存を行ってきました。

今年度は北山田北部地区の神成遺跡の調査を実施しました。調査の結果、奈良・平安時代、中世の遺構が確認されました。また、当時の生活に用いられた土器も数多く出土しました。本書は、その調査の成果をまとめたものです。郷土の歴史の解明や学術研究等に活用していただければ幸いです。

終わりに、この調査の実施にあたり、富山県農林水産部、南砺市シルバー人材センター、ほ場整備事業北山田北部地区委員会をはじめ、地元住民の方々に多くなご協力を賜りましたことに、深く感謝を申し上げます。

平成18年3月

南砺市教育委員会

教育長 梧桐角也

例　　言

- 本書は、県営ほ場整備事業（担い手育成型）北山田北部地区に伴う富山県南砺市神成遺跡の発掘調査概要である。
- 調査は、富山県農林水産部の委託を受け、南砺市教育委員会が実施した。現地調査は、平成17年8月から同年11月にかけて行った。調査面積は神成遺跡3,370m²である。地元負担金については、南砺市教育委員会が団庫補助金・県費補助金を受けた。
- 調査事務局は南砺市教育委員会文化課におき、文化課長 上田一郎が総括のもと、文化財係長 林浩明、文化財係文化財保護主事 片田亜紀が調査事務を担当した。調査の担当及び本書の執筆は、片田が行った。
- 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々の協力・助言があった。記して謝意を表す。
太鳴建設・森組・山田清範・山田政寛・山田良男（敬称略・五十音順）
- 本書で使用した方位は真北である。土層の観察には、小出正忠・竹原秀雄編著1967「新版標準土色帖」日本色研事業株式会社を用いた。
- 調査参加者は次の通りである。
井口金治・井口外治・井口富士雄・金本幸作・坂下弘・中沢昭夫・水口良男・溝口日出夫・山田善之
井口鶴子・中山政子・橋本澄子・水口貞子・水口浜子・山田澄乃（現地作業員）
東良明・石崎三枝子・鍛治麗子・西川和美・長谷川雅弘（遺物整理作業）

目　　次

I 位置と環境	1	第11図 神成遺跡7地区の遺構	17
第1図 位置と周辺の遺跡	1	第12図 神成遺跡8地区の遺構(1)	18
II 調査に至る経緯と経過	2	第13図 神成遺跡8地区の遺構(2)	19
第1表 調査経過	2	第14図 神成遺跡10地区の遺構	20
第2表 遺跡の概要	2	第15図 神成遺跡7地区・8地区の遺物(1)	21
第2図 遺跡範囲と調査区位置図	3	第16図 神成遺跡8地区の遺物(2)	22
III 調査の概要	4	第17図 神成遺跡8地区の遺構(3)	23
1 調査の方法	4	第18図 神成遺跡8地区の遺物(4)	24
第3図 神成遺跡7・10地区的調査区割	4	第19図 神成遺跡9地区・10地区的遺物	25
2 神成遺跡7地区の概要	5	図版1 神成遺跡7・8・9地区遠景	
第4図 神成遺跡8・9地区的調査区割	5	図版2 神成遺跡7・8地区全景	
3 神成遺跡8地区的概要	6	図版3 神成遺跡7地区の遺構	
第5図 神成遺跡8地区的基本層序	6	図版4 神成遺跡8地区的遺構	
4 神成遺跡9地区的概要	7	図版5 神成遺跡9・10地区全景	
5 神成遺跡10地区的概要	7	図版6 神成遺跡10地区的遺構	
第6図 神成遺跡10地区的基本層序	7	図版7 神成遺跡7・8地区的遺物(1)	
IV まとめ	8	図版8 神成遺跡8地区的遺物(2)	
参考文献	9	図版9 神成遺跡8地区的遺物(3)	
図版凡例	10	図版10 神成遺跡8地区的遺物(4)	
第7図 神成遺跡7地区平面図	11	図版11 神成遺跡9・10地区的遺物	
第8図 神成遺跡8地区平面図	13	図版12 神成遺跡8地区出土の墨書き土器(1)	
第9図 神成遺跡9地区平面図	15	図版13 神成遺跡8地区出土の墨書き土器(2)	
第10図 神成遺跡10地区平面図	16	報告書抄録	

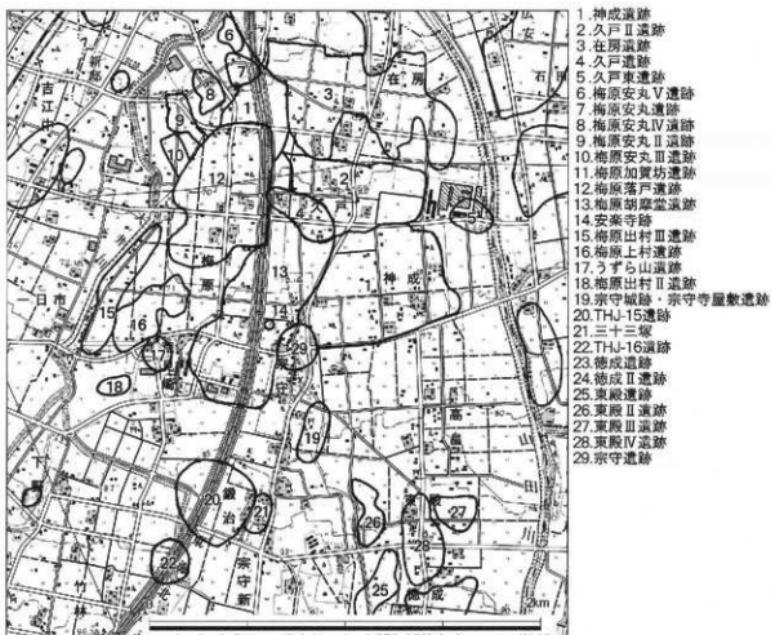
I 位置と環境

富山県南砺市は、石川県金沢市と県境をなす富山県の西南部に位置する。市の西側には、養老3年(719)、泰澄大師によって開山されたと言う雲峰医王山をはじめとする山脈が連なり、南西部にある大門山から流れる小矢部川が、その支流とともに平野部を形成する。福光の市街地は主に小矢部川沿いに展開し、小矢部川とその支流である山田川に挟まれた段丘には小河川が縦横に走り、それらを利用した田地が広がる。

神成遺跡は、山田川左岸の標高約70mから67mの緩やかな傾斜を持つ洪積台地上の高宮田尻面に位置する。神成遺跡は、神成地内のほぼ全域にあたる、東西560m、南北600mの範囲で広がっている。現況は主に田地・畑地である。山田川を隔て、砺波平野を一望できる微高地に立地し、台地末端から河川域までの比高差は2m前後を測る。

周辺には、在房遺跡、久戸I遺跡、久戸II遺跡、宗守遺跡、梅原胡摩堂遺跡などの遺跡が密集しており、近年の調査で、古墳時代、奈良・平安時代の住居跡や中世の建物跡が数多く発見されている。また墨書き器や製塙土器なども出土しており、北山田地区一帯では古くから大規模な集落が営まれていたことがわかる。

文献資料では、旧福光町の一部が砺波川上郷に含まれていたとされている。平安時代には川上村と呼ばれ、官倉が置かれていたことが知られる。その後11世紀には円宗寺領石黒庄が成立し、当地域はそのうちの山田郷の一部に含まれる。



第1図 位置と周辺の遺跡 (S=1:25,000)

II 調査に至る経緯と経過

平成10年(1998)、旧福光町北山田北部地区において、県営ほ場整備事業(担い手育成型)が策定された。この事業は農地を担い手に集積し、経営規模を拡大させることにより低コスト化を目指すものであり、田の大区画による基盤整備を行うものである。事業計画は在房、久戸、神成、宗守の約100haを対象とし、平成10年度から平成14年度までが工期とされた。これに先立ち平成8年度に、町教委員会は県埋蔵文化財センターの職員の派遣を受けて、事業計画地内で遺跡分布調査を行ったところ、広範囲において遺物の散布地を確認した。そのため、平成10年度から国庫補助金を受けて、遺跡の範囲確認を行うため試掘調査を実施した。試掘調査の結果、遺跡が広範囲に渡って遺存していることが確認されたため、県農地林務部、県教育委員会、地元土地改良区と遺跡の保護措置について協議を重ねた。その結果、遺跡の大半は盛土を行うことで水田下に保存し、一部の面工事・農道建設・川排水路部分のような遺跡が保存できない場所について本調査を実施することとなった。以降、毎年度工事に先行して試掘調査を行い、平成12年度からは並行して本調査を行っている。

平成17年度の調査は神成遺跡7地区約1,240m²、8地区1,190m²、9地区830m²、10地区110m²、合計3,370m²である。遺跡の南部に位置し、田面調整により削平を受けるため本調査対象となった。北山田北部地区に所在におけるこれまでの調査概要は次のとおりである。

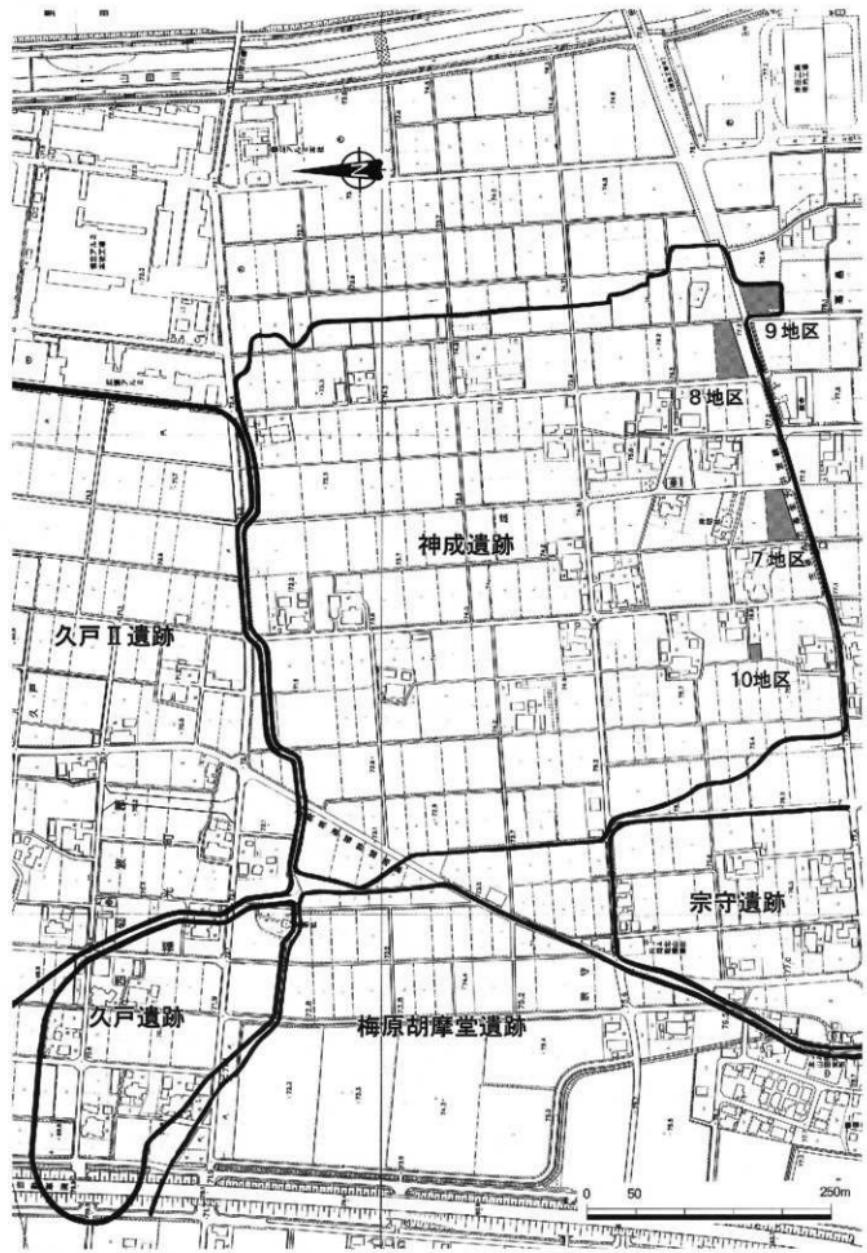
第1表 調査経過

	遺跡名	試掘調査 対象面積	本調査 面積
平成10年度	在房遺跡	約 6.0 ha	—
平成11年度	在房遺跡	約 24.3 ha	—
	久戸Ⅰ遺跡	約 9.4 ha	—
平成12年度	在房遺跡	約 6.1 ha	3,175 m ²
	久戸遺跡	約 6.0 ha	—
	久戸Ⅱ遺跡	約 3.8 ha	—
	神成遺跡	約 9.3 ha	—
平成13年度	在房遺跡	—	305 m ²
	神成遺跡	約 18.3 ha	—
	久戸Ⅱ遺跡	約 0.6 ha	—

	遺跡名	試掘調査 対象面積	本調査 面積
平成14年度	在房遺跡	—	640 m ²
	久戸Ⅱ遺跡	—	1,040 m ²
	宗守遺跡	約 1.7 ha	—
	神成遺跡	約 3.2 ha	—
	梅原胡摩堂遺跡	約 4.2 ha	—
平成15年度	神成遺跡	—	1,599 m ²
	久戸Ⅱ遺跡	—	1,743 m ²
平成16年度	神成遺跡	—	2,620 m ²
	久戸Ⅱ遺跡	—	2,120 m ²
平成17年度	在房遺跡	—	1,910 m ²
	神成遺跡	—	3,370 m ²

第2表 遺跡の概要

遺跡名	所属時代	発見遺構	発見遺物
在房遺跡	縄文時代晩期、古墳時代、古代、中世	堅穴住居、掘立柱建物、土坑溝、井戸、柱穴	縄文土器、須恵器、土師器、製塗土器、中世土師器、珠洲、青磁、白磁、木製品、筋鉢車
久戸遺跡	縄文時代、中世	柱穴、土坑、溝	縄文土器、須恵器、土師器、珠洲、漆戸、青磁、白磁、肥前系陶磁器
久戸Ⅱ遺跡	縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代、中世	堅穴住居?, 掘立柱建物、土坑溝、柱穴	縄文土器、苏生土器、須恵器、土師器、碗、土鍋、中世土師器、珠洲、木製品
神成遺跡	縄文時代、古墳時代、古代、中世、江戸	堅穴住居、上坑、柱穴、溝	須恵器、土師器、中世土師器、珠洲、青磁
宗守遺跡	縄文時代中期、中世、近世	柱穴、土坑、溝	縄文土器、石斧、土師器、須恵器、中世土師器
梅原胡摩堂遺跡	縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代、中世、江戸	島跡、掘立柱建物、溝、掘立柱、井戸	縄文土器、打製石器、土師器、須恵器、中世土師器、珠洲、青磁、白磁、越前、越中窯戸、瀬戸美濃、石臼



第2図 遺跡範囲と調査区位置図 (S=1:5,000)

III 調査の概要

1. 調査の方法

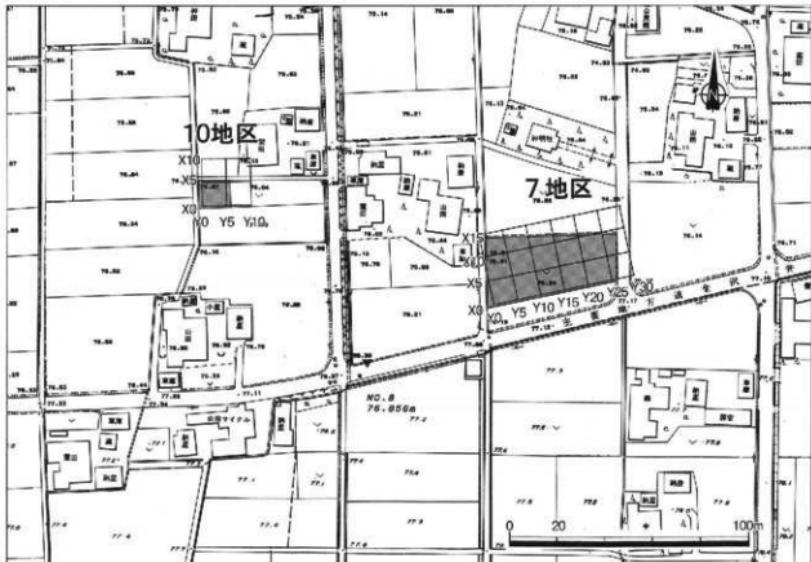
調査区域の設定後、試掘調査の結果に基づき、調査員の立ち会いのもとで表土除去を行った。表土除去には重機を使用し、耕作土および前回は場整備時の盛土の層まで掘削した。耕作土は、盛土と分けて調査区の外に搬出した。

表土除去後に、調査区に合わせたおおよその東西方向、南北方向に基準杭を設置して調査区割りを行った。区割りは、南から北にX軸、西から東にY軸とし、2mを一区画としてアラビア数字で表記した。

調査区に合わせてサブトレンチを設定し、地山面まで掘り下げる層位を観察した。一部にセクションベルトを残して層位を確認しながら、人力による包含層掘削、遺構検出、遺構掘削を行った。遺構の掘削は、埋土の堆積状況を観察するために半裁するか、セクションベルトを2本ないし3本残して掘削し、上層の記録作業が終わるしだい完掘した。排土は、人力により調査区外へ搬出した。

遺構は検出後、1:100で概略図を作成して、遺構ごとに通し番号をつけ管理した。遺構の検出状況や土層、遺物の出土状況は、手実測により1:20で図化を行った。また各遺構の検出状況、断面、完掘状況などの記録写真、調査区のブロック写真、全体写真も撮影した。すべての遺構完掘後、ラジコンヘリコプターによる空中写真測量撮影を行い、あわせて俯瞰・斜め写真等を撮影した。

出土遺物は、現地作業と並行して洗浄・バインダー処理・注記・仕分けの整理作業を行った。接合、復元は現場作業中止時や、現場終了後に行った。写真や図面は年度・遺跡・地区ごとにファイルにまとめ、出土遺物は報告書の写真図版のとおりに整理箱に収めた。またそれ以外の遺物は地区の遺構ごと、グリットごとにならべて整理箱に収めた。



第3図 神成遺跡7・10地区的調査区割 (S = 1 : 2,000)

2. 神成遺跡 7 地区の概要

(1) 地形と基本層序

7 地区の海拔は75.5m～76.1mを測る。地形は南西から北東にかけて緩やかに傾斜している。地表から地山面までの深さは約50～80cmである。

土層は地山（黄褐色粘質土）、遺物包含層（黒褐色粘質土）、前回は場整備時の盛土（茶褐色粘質土）、現在の耕作土の順に堆積している。調査区全体的に削平が激しく、遺物包含層はほとんど遺存していない。

(2) 遺構の概要（図版 1）

7 地区では、土坑、柱穴と近代の溝、土坑を検出した。また近年まで民家があり、それに付随する井戸、廁等と思われる土坑をいくつか検出した。

SK01（第11図、図版 3）

調査区の東端、X 5 Y 24付近に位置する。東西方向約1.2m、南北方向約1mの方形の土坑である。検出面からの深さは30cmであり、埋土は黒褐色粘質土を中心に2層に細分できる。出土遺物はない。

柱穴（第11図、図版 3）

調査区の東端と南西端にいくつかの柱穴が点在している。P1～P3はX 5 Y 23付近に位置する。P1とP2は検出面からの深さが約10cmと浅く、埋土は黒色粘質土である。P3は直径約80cmの円形を呈し、は約60cm。埋土は黒褐色土を中心に4層に細分できる。P12～14はX 4 Y 1付近に位置する。は15cm前後であり、埋土は黒褐色土が中心である。

(3) 遺物の概要

出土遺物には、須恵器、土師器、中世土師器、珠洲がある。



第4図 神成遺跡 8・9 地区の調査区割 (S = 1 : 2,000)

包含層（第15図、図版7）

1～4は須恵器である。1は杯、2は杯B、3・4は蓋である。5・6は土師器・壺の口縁部である。7は土師器・高台の極で、内面に黒色処理を施す。8は土師器・柱状高台の皿の底部である。9は土師器・皿である。底部に糸切り痕が見られる。10・11は珠洲・壺である。11の内面に当て具痕、外面に叩き目が見られる。

3. 神成遺跡8地区の概要

（1）地形と基本層序（第5図）

8地区の海拔は75.5m～75.9mを測る。調査区の東側で約50cmの比高差のある箇所は遺跡外であり、8地区は神成遺跡の東端にある。地形は南西から北東にかけて緩やかに傾斜している。地表から地山面までの深さは約15～20cmである。

上層は地山（黄褐色粘質土）、遺物包含層（黒褐色粘質土）、前回は場整備時の盛土（茶褐色粘質土）、現在の耕作土の順に堆積している。調査区全体に遺物包含層が遺存しており、古代の遺物が多く出土している。

（2）遺構の概要

溝1、柱穴を検出した。

SD01（第12～13図、図版4）

調査区の西端、X0～15、Y0～5付近を南から北西へ流れる。X10、Y3付近で緩やかに屈曲する。幅約6m、検出面からの深さ約1.2mである。埋土は黒褐色土と地山砂質土が互層をなしており、13層に細分できる。下層は黒褐色砂質土に礫が混じり、かなりの保水性がある。地山はグライ化している。溝上層部の黒色粘質土と青灰色砂質土の層から、須恵器・杯、蓋や壺、壺の体部破片、土師器・壺などがまとまって出土している。また墨書き器も、須恵器・杯4点、蓋3点、杯B2点の9点出土している。出土遺物の時期は概ね8世紀後半から9世紀であり、この溝が流れていたのも、この時代と思われる。

柱穴（第13図、図版4）

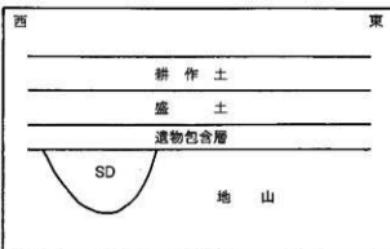
柱穴は調査区の北西端のSD01の東側で検出した。P1は直径約80cm前後、深さ約30cmであり、埋土は黒色土を中心に4層に細分できる。小片で図示していないが土師器が出土している。P2は直径40cm前後、深さは30cm、埋土は黒褐色粘質土を中心に2層に分けられる。

（3）遺物の概要

出土遺物には、須恵器、土師器、珠洲がある。

SD01（第15～18図、図版7～10）

12～79は須恵器である。12～41は杯であり、概ね口径11cm前後、器高3～4cmである。36～39の底部外側には墨書きがある。36・37・39には「ω」の記号、あるいは「人」の字が、38には「東?」の字が書いてある。40・41は大型で、口径が16～18cmの杯である。41は杯Bの可能性もある。42～60は蓋である。概ね口径11cm前後である。58・59の体部外側に横位置で「諸」の字の墨書きがある。61は短頸壺の蓋である。62～74は杯Bである。64の底部外側には判別不能の墨書きが、69の底部外側には「車」あるいは「東」と



第5図 神成遺跡8地区の基本層序

読める壺があるが全容は不明である。75は長頭壺の頭部である。76は壺の体部破片である。内面に同心円の当て具痕が、外面には平行叩き口がみられる。77は壺の、79は壺の底部である。78は鉢である。口径は16cmを測る。80～93は土師器である。80は皿である。81・82・85は楕の底部である。83は楕である。内外面に赤彩を施す。84は高台の楕の底部である。86～92は壺である。93は鍋である。

包含層（第18図、図版10～11）

94～102は須恵器である。94・95は杯、96・97・99～101は杯Bである。99・100は口徑18cm前後の大型で、体部外面には「キ」のヘラ記号がある。98は蓋で、102は長頭壺の体部である。上面に自然釉がかかっている。103～111は土師器である。103は楕、104～107は土師器・皿である。108～110は柱状高台の皿である。108は底部外面から、109は底部内面から孔を穿つ。111は壺である。112は珠洲・すり鉢である。底部外面に静止糸切り痕が見られる。

4. 神成遺跡9地区の概要

（1）概要（図版1）

神成遺跡9地区は、遺跡の南東端に位置する。試掘調査では、若干遺物が出土していたが、表土はぎ、精査を行ったところ、遺物包含層はほとんど遺存しておらず、遺構も見つからなかった。そのため、9地区ではグリット測量と基本層序の確認、人力による精査を行い、空中写真による図化は行わなかった。

（2）遺物の概要（第19図）

出土遺物に須恵器、土師器がある。すべて地山直上で出土している。

113～120は須恵器である。113～115は杯、116・117は杯Bである。118は蓋、119は短頭壺の蓋である。120は壺の体部破片である。内面には同心円の当て具痕が、外面には平行叩き口が見られる。121は土師器・壺の口縁部である。

5. 神成遺跡10地区の概要

（1）地形と基本層序（第6図）

神成遺跡10地区は遺跡の南西側に位置しており、試掘調査でも多くの遺構、遺物を検出した箇所である。遺物包含層も良好に遺存している。海拔は、75.4m～75.7mを測る。

土層は地山（黄褐色粘質土）、遺物包含層（黒褐色粘質土）、近代の堆積層（茶褐色粘質土、粗砂まじり）、現在の耕作土の順に堆積している。

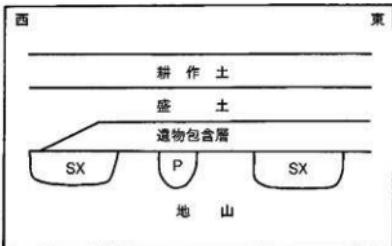
（2）遺構の概要

S X01（第14図、図版6）

調査区の東寄り、X 2～4、Y 3～4付近に位置する。南北方向4m、東西方向2.5mの方形の土坑であり、西側でS X02を切っている。深さは約50cmであり、埋土は黒色粘質土と黒褐色粘質土に地山砂質土と疊がまじり、4層に細分できる。小片で図示していないが、土師器が出土している。

S X02（第14図、図版6）

調査区の東寄り、X 4、Y 3付近に位置する。南北方向1.8m、東側はS X01に切られており推定で東西方向2m前後の方形の土坑である。深さは約30cmであり、埋土は黒色粘質土に、地山砂質土が混じり、



第6図 神成遺跡10地区の基本層序

3層に細分される。出土遺物は無い。

S X03 (第14図、図版6)

調査区の西端、X 3～4、Y 1付近に位置する。南北方向2.5m、西側が調査区外に延びるため、東西方向は推定4m前後である。深さは40cmであり、埋土は黒色粘質土と黒褐色粘質土を中心にして5層に細分できる。出土遺物は土師器の皿・椀、須恵器・双耳瓶、珠洲・壺が出土している。

(3) 遺物の概要

出土遺物には須恵器、土師器、珠洲がある。

柱穴 (第19図、図版11)

122はP31出土の土師器・皿である。123はP32出土の珠洲・壺である。124はP38出土の須恵器・壺である。

S X03 (第19図、図版11)

125～134は土師器である。125～127は皿、128～134は椀である。129・131の底部外面には回転糸切り痕がみられる。135は須恵器・双耳瓶である。136は珠洲・壺の底部である。

包含層 (第19図、図版11)

137～140は土師器である。137は皿、138～140は土師器・椀である。139は内面に黒色処理を施す。141は珠洲の体部破片である。142は珠洲・すり鉢である。

IV まとめ

1. 神成遺跡7地区では、遺物が数点出土したが、検出した遺構はほとんどが近代であった。この地区は神成遺跡の南端にあたり、古代・中世の遺構の密度はかなり薄い。また近年まで民家があった場所であったことから、遺物包含層も遺構もかなり削平を受けたと考えられる。
2. 神成遺跡8地区は、全面的に遺物包含層が遺存しており、表土除去、包含層剥削の段階で8世紀後半の須恵器や11世紀代の土師器など、多くの遺物が出土した。しかし、山田川に近いため地山はところどころで砂礫層が隆起しており、遺構は少なく、調査区の西端で溝と柱穴2つを検出したのみであった。この溝からは8世紀後半～9世紀の遺物が多く出土し、墨書き器も9点出土した。8地区は集落の中心部ではないが、周辺には拠点的な集落が存在していたと考えられる。
3. 神成遺跡9地区では、遺構は検出できなかった。この地区は遺跡の南東の端であり、古代・中世の集落のはずれにあたる場所と考えられる。わずかに残る遺物包含層や近世以降の埋土から須恵器が出土している。
4. 神成遺跡10地区からは、土坑3基と柱穴を多数検出した。この地区は他の調査区と比べ、遺構密度が高く、12世紀中頃の遺物が多く出土しており、この付近に中世の集落が展開していたと考えられる。柱穴は60以上検出したものの、掘立柱建物の柱穴列は確認できなかった。また遺構に伴う出土遺物が少なく、土坑等の詳しい用途は不明である。

参考文献

- 内田亜紀子2003「富山県の黒色土器（2）－9～11世紀の県内資料を中心にして」『紀要第6号 富山考古学研究』
- 金川章裕1993「医王山麓の平野における中世の景観」『医王は語る』
- (財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所2006『任海宮田遺跡発掘調査報告Ⅰ』
- 社団法人石川県埋蔵文化財保存協会2003『石川県出土文字資料集成』
- 珠洲市立珠洲焼資料館1989『珠洲の名陶』
- 中野由紀子2001「任海宮田遺跡出土の墨書き土器－B1地区出土資料の紹介－」『紀要第4号 富山考古学研究』
- 中野由紀子2002「任海宮田遺跡出土の墨書き土器（2）－平成13年度調査出土資料の紹介－」『紀要第5号 富山考古学研究』
- 福光町教育委員会2001『在房遺跡Ⅰ』
- 福光町教育委員会2003『県営ほ場整備事業（担い手育成型）に係る埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告－北山田北部地区－』
- 福光町教育委員会2003『在房遺跡Ⅲ 久戸Ⅱ遺跡Ⅰ』
- 福光町教育委員会2004『神成遺跡Ⅰ 久戸Ⅱ遺跡Ⅱ』
- 福光町教育委員会2005『久戸Ⅱ遺跡Ⅲ 神成遺跡Ⅱ』
- 婦中町教育委員会2000『県営担い手育成基盤整備事業に係る埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告書』
一婦中南部地区・千里地区
- 舟橋村教育委員会2000『浦田遺跡発掘調査報告(3)』
- 北陸古代土器研究会1993『北陸古代土器研究第3号』
- 北陸古代土器研究会1994『北陸古代土器研究第4号』
- 北陸古代土器研究会1995『北陸古代土器研究第5号』
- 北陸古代土器研究会1997『北陸古代土器研究第6号』
- 北陸古代土器研究会1997『北陸古代土器研究第7号』
- 森隆2003「富山県の中世土器(資料編)」『紀要 富山考古学研 第6号』
- 吉岡康暢1991『日本海域の土器・陶磁 [古代編]』六興出版

図版凡例



須恵器、珠洲断面



青磁断面



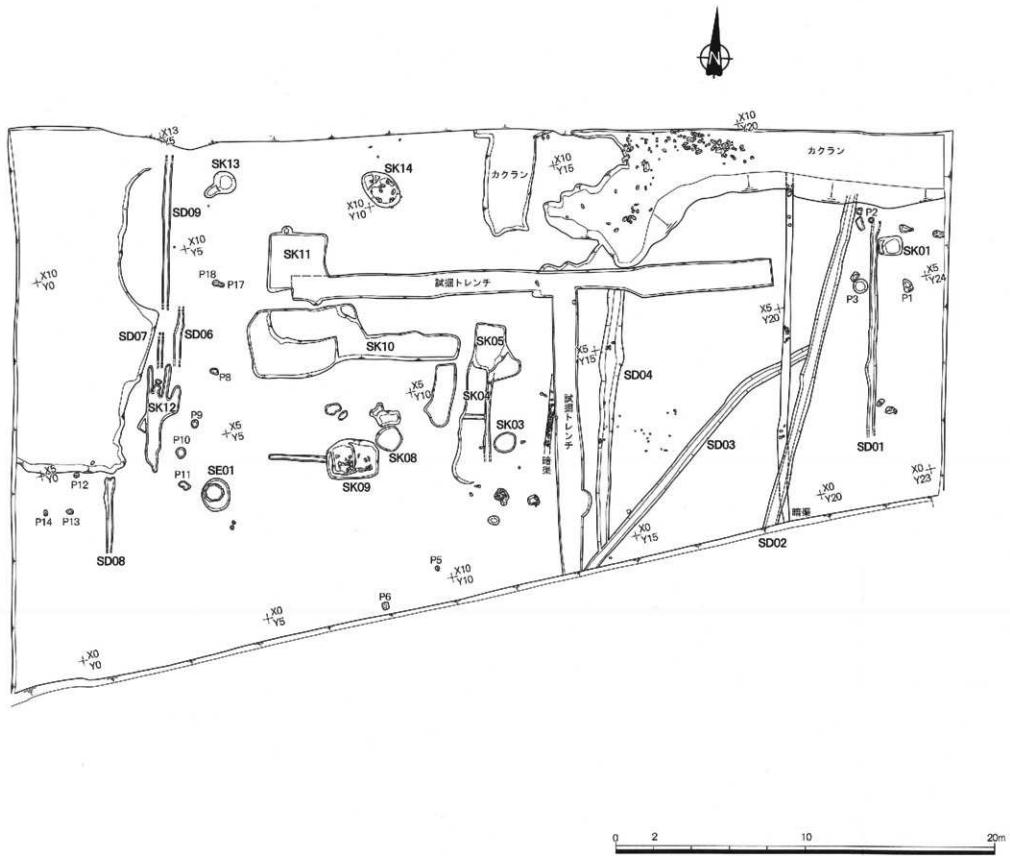
土師器、中世土師器断面



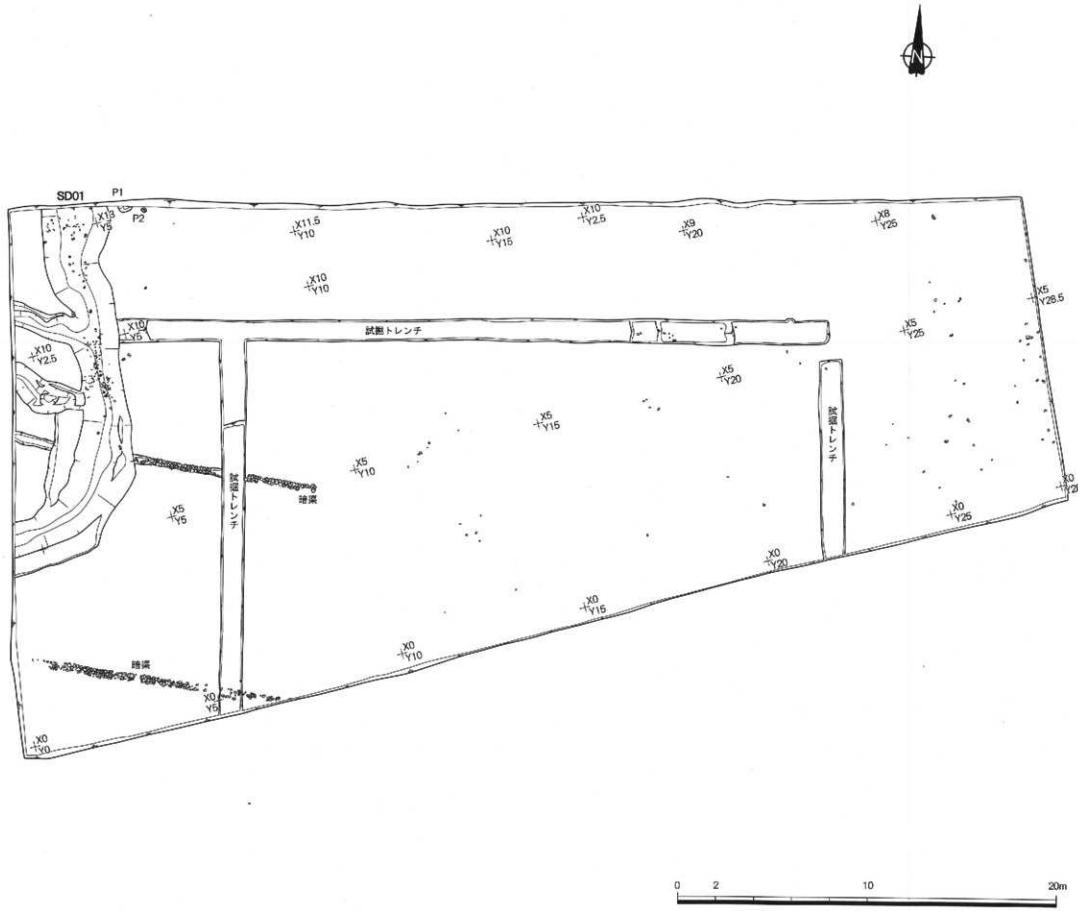
内面黒色部位



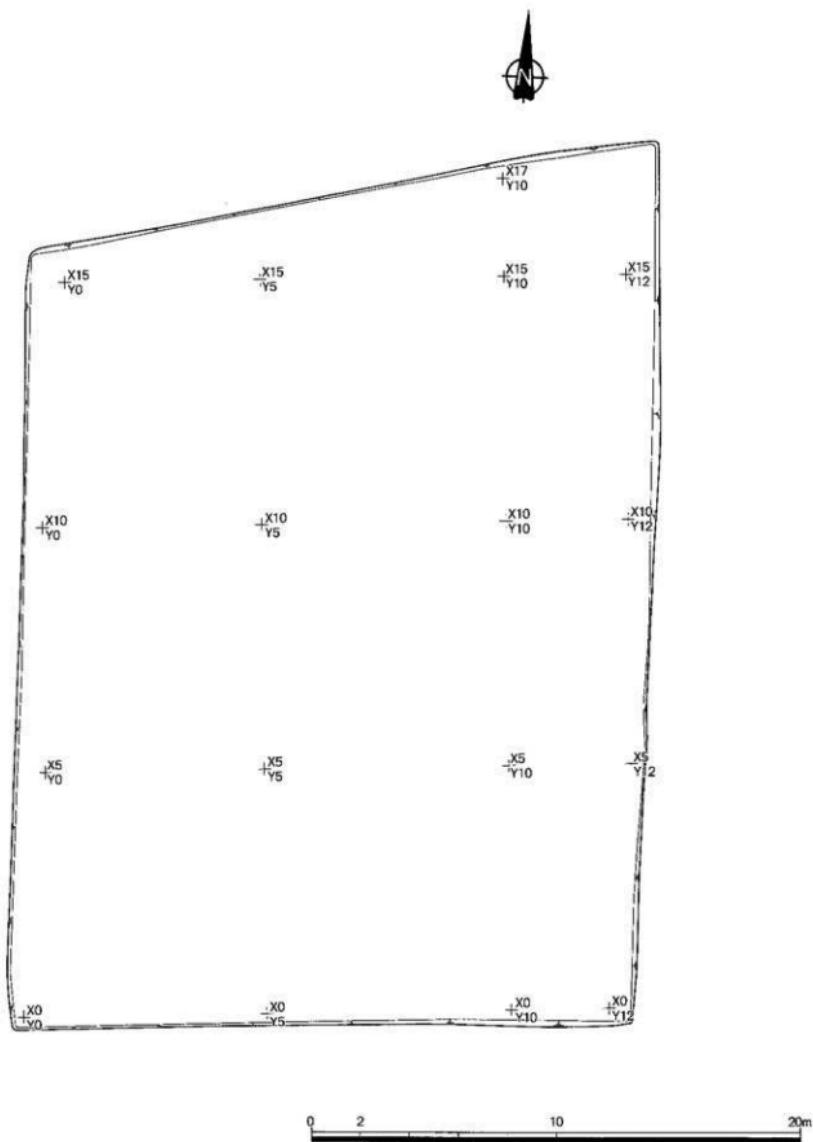
赤彩部位



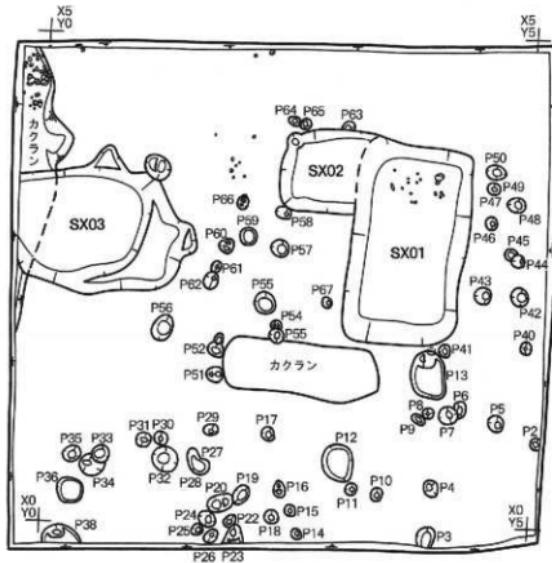
第7図 神成遺跡7地区平面図 (S=1:200)



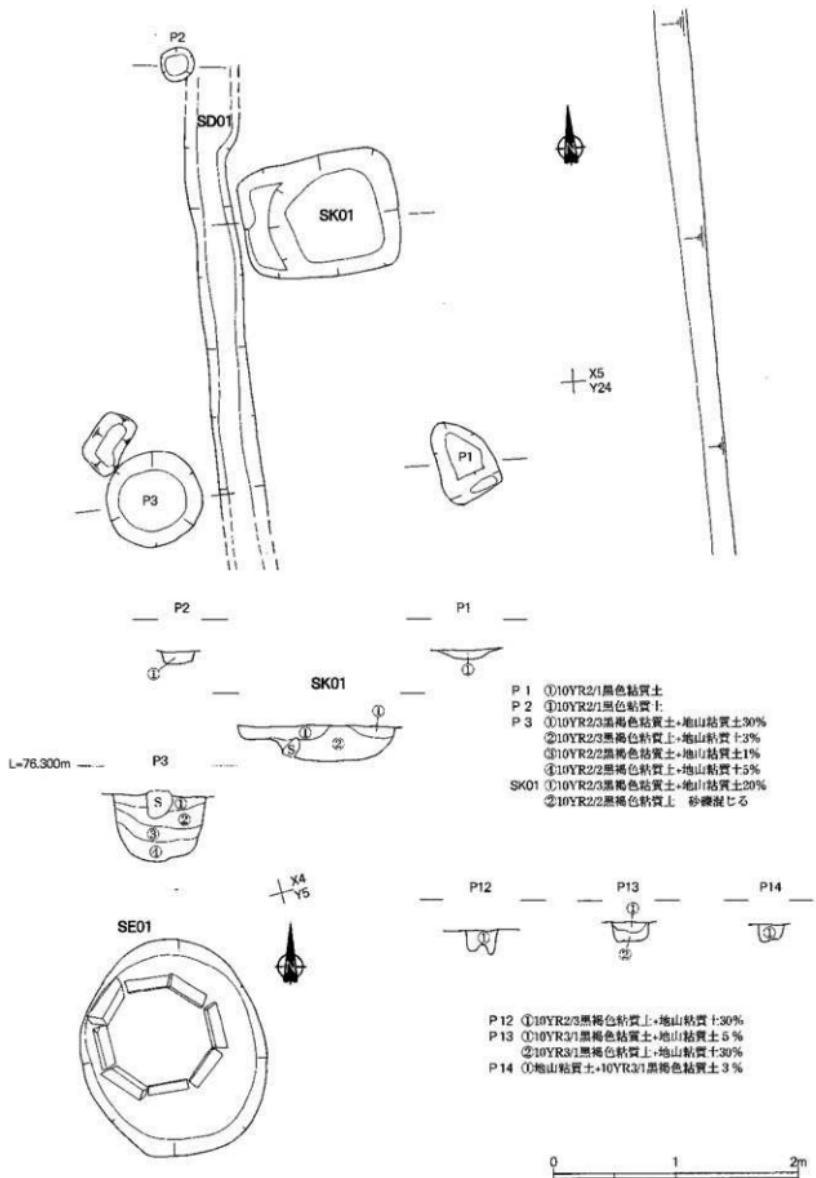
第8図 神成遺跡8地区平面図 (S=1:200)



第9図 神成遺跡9地区平面図 (S=1:200)

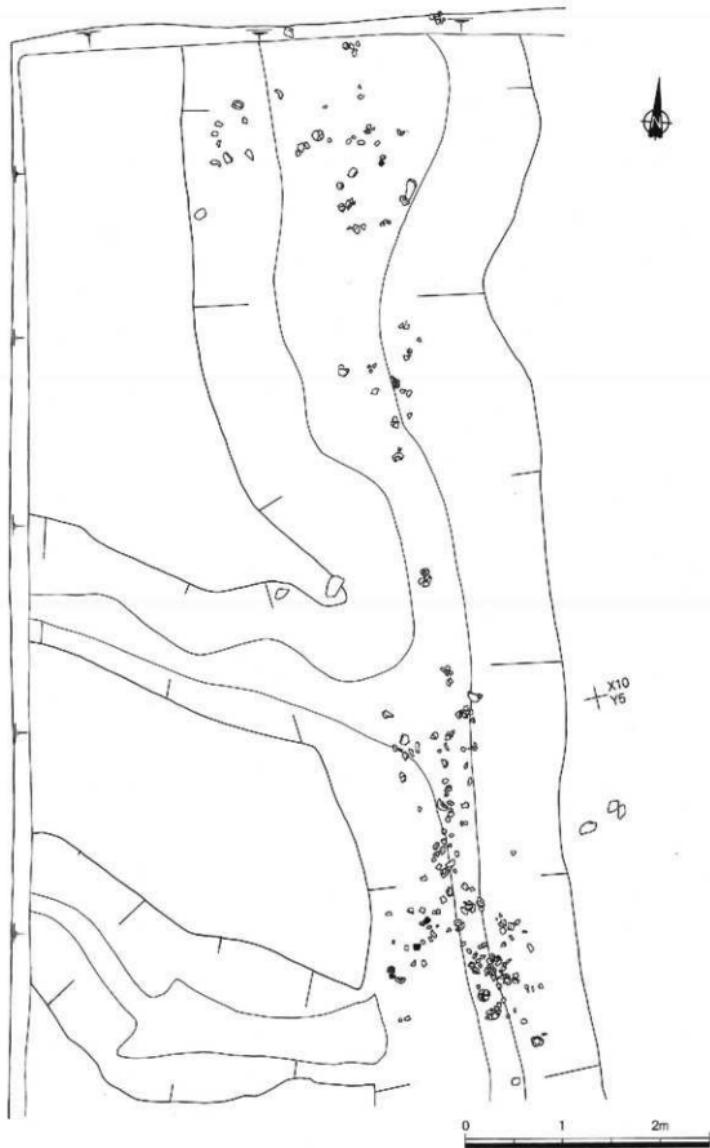


第10図 神成遺跡10地区平面図 (S=1:100)



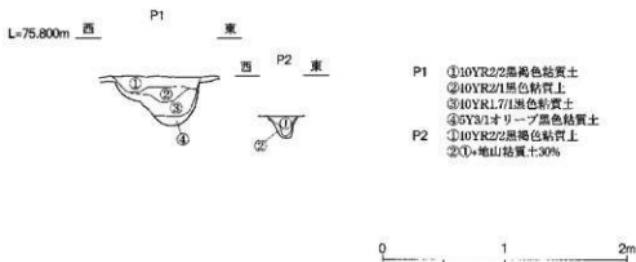
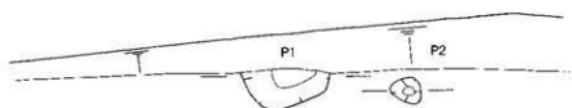
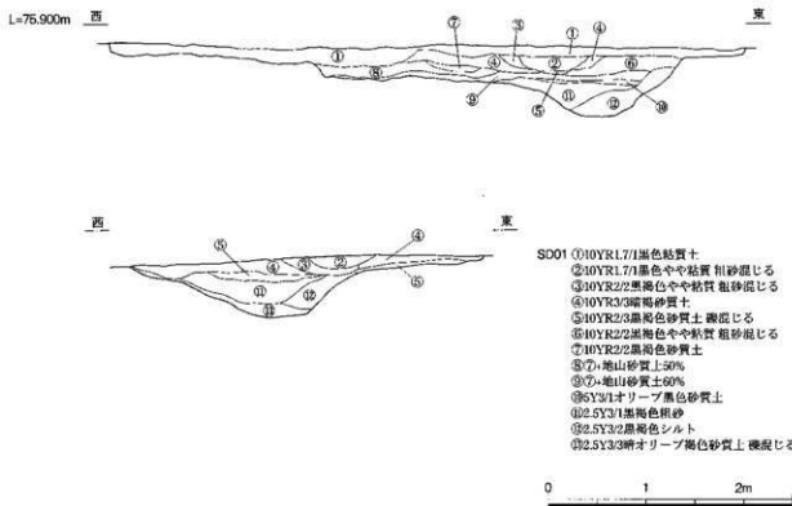
第11図 神成遺跡7地区の遺構 (S=1:40)

SD01遺物出土状況

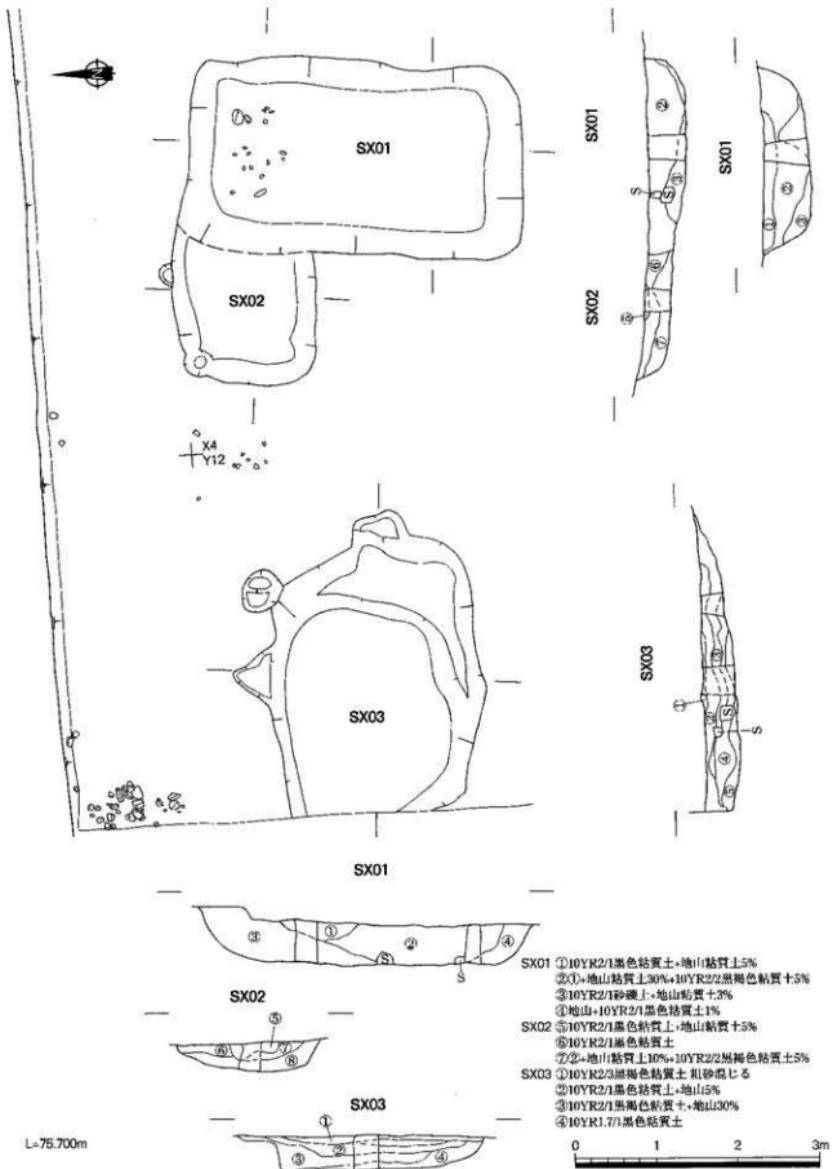


第12図 神成遺跡8地区の遺構(1) (S=1:50)

SD01断面

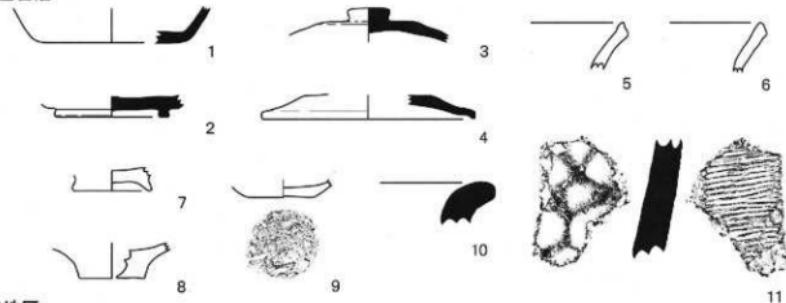


第13図 神成遺跡8地区の遺構(2) (SD01はS=1:50、P1はS=1:40)

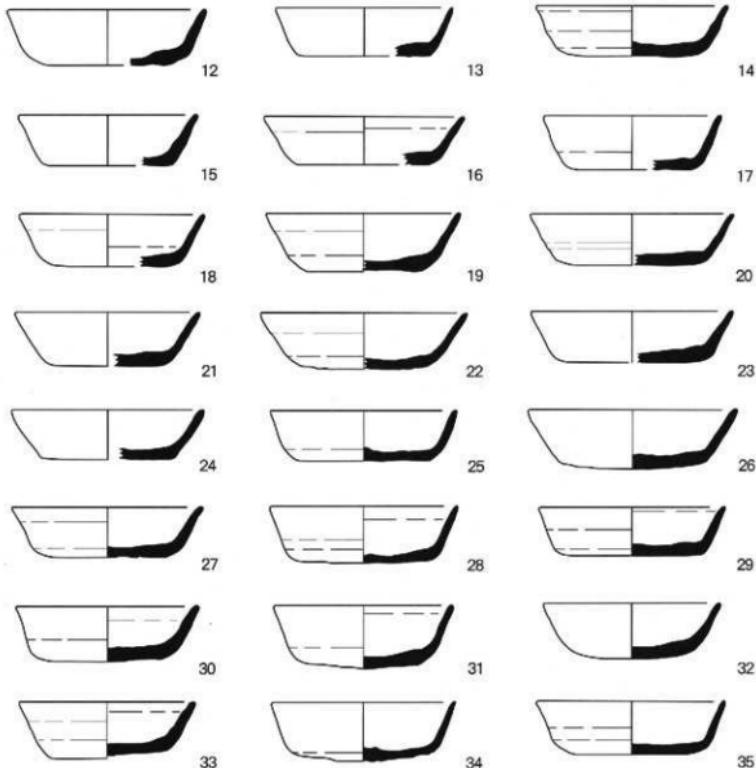


第14図 神成遺跡10地区の遺構

7地区
包含層



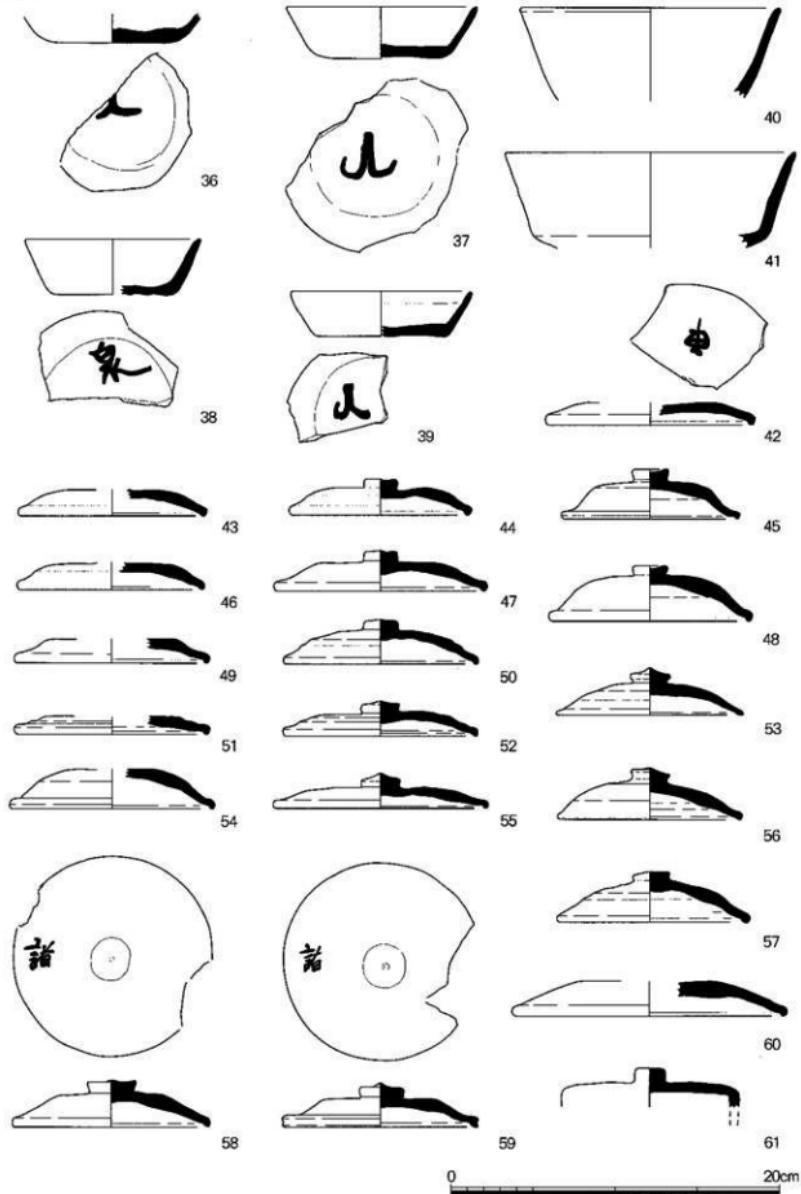
8地区
SD01



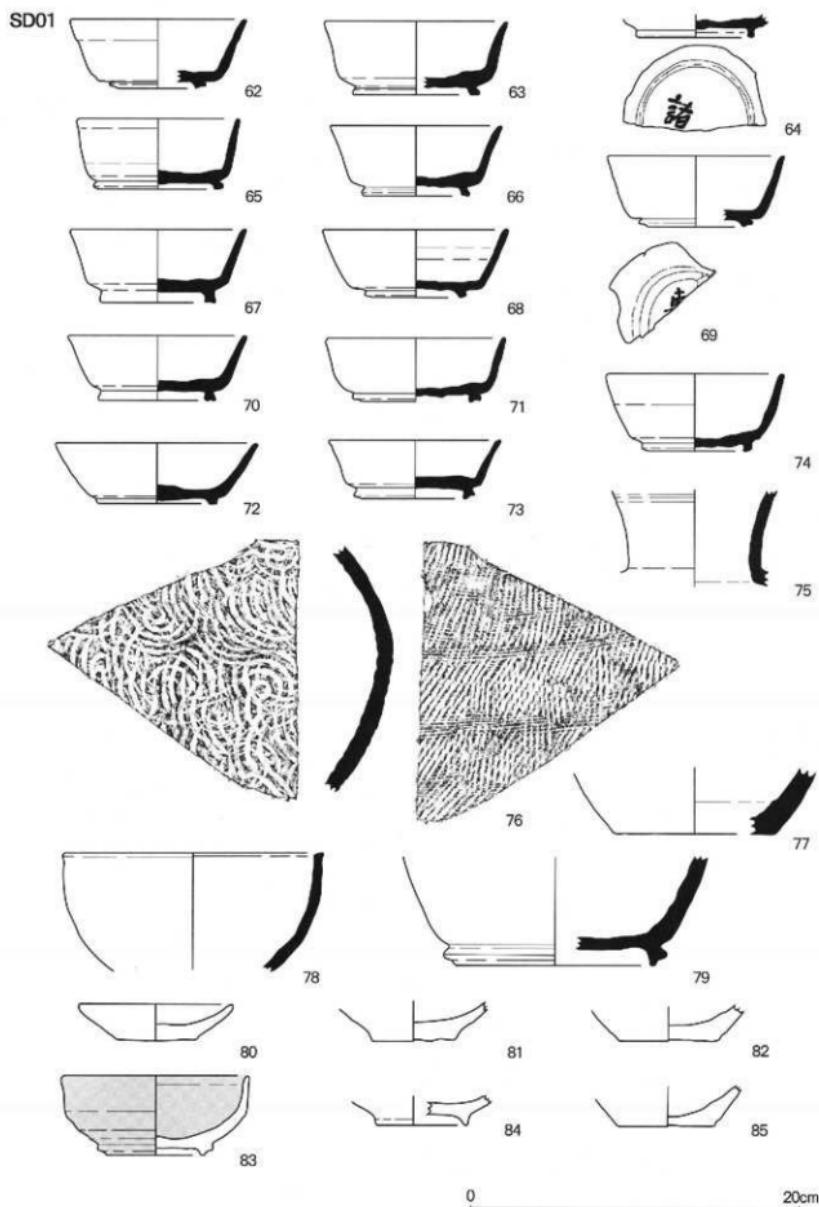
0 20cm

第15図 神成遺跡7・8地区の遺物(1) (S = 1 : 3)

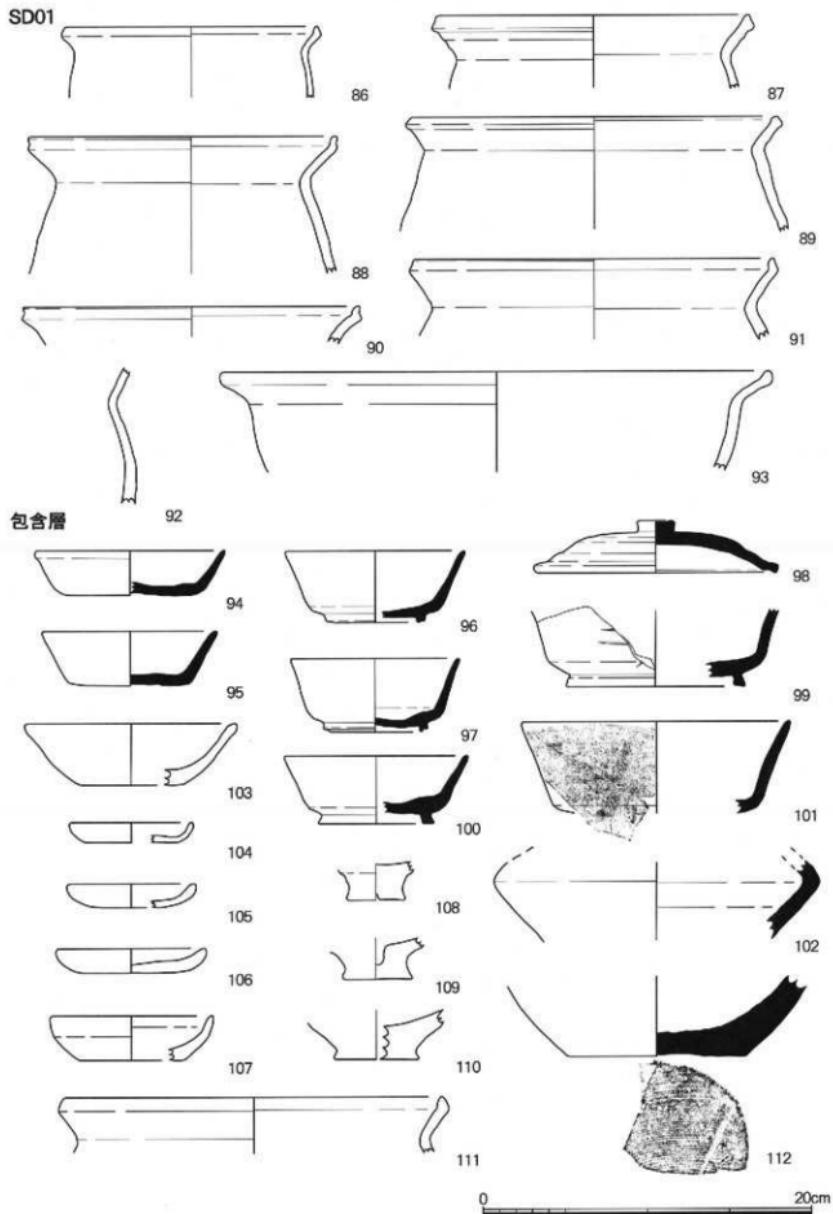
SD01



第16図 神成遺跡8地区の遺物(2) (S = 1 : 3)

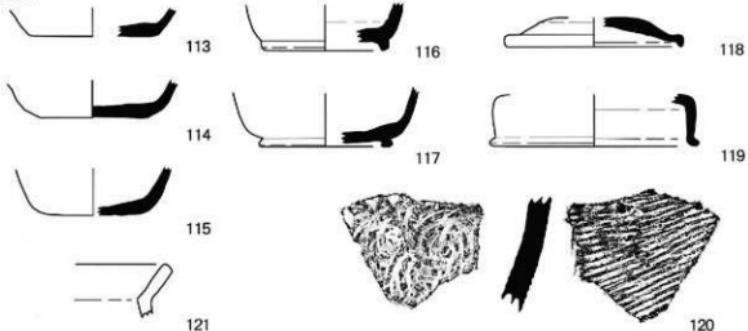


第17図 神成遺跡8地区の遺物(3) (S = 1:3)



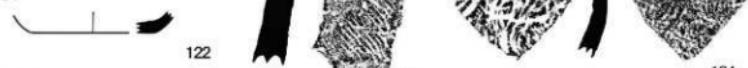
第18図 神成遺跡8地区の遺物(4) (S = 1:3)

9地区

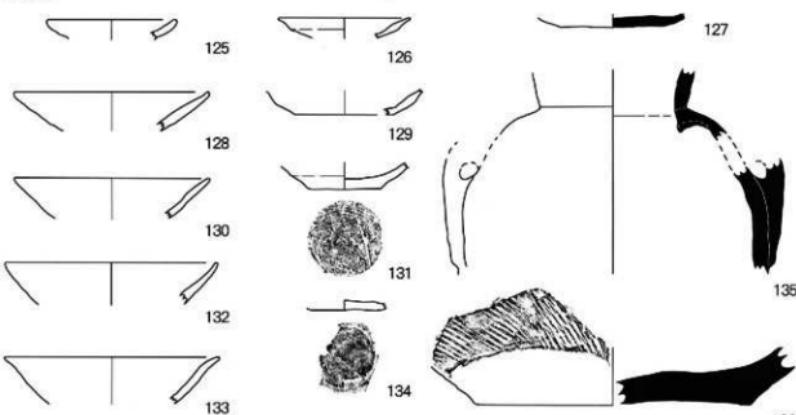


10地区

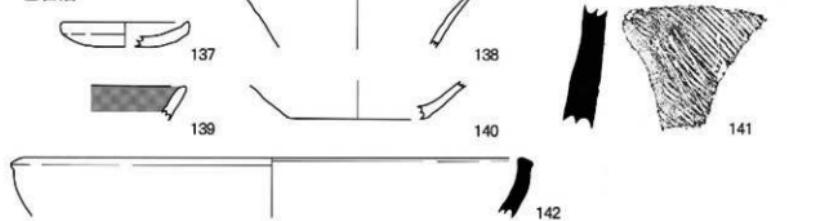
P31



SX03



包含層



0 20cm

第19図 神成遺跡9・10地区の遺物 (S = 1:3)



①

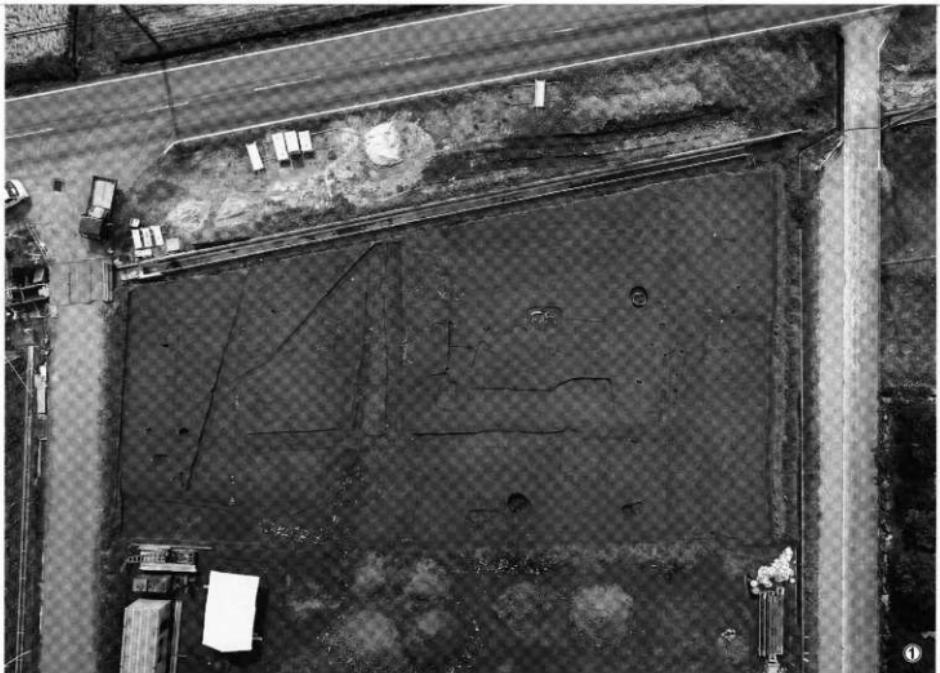


②

図版1 神成遺跡7・8・9地区遠景

①7地区遠景（西から）

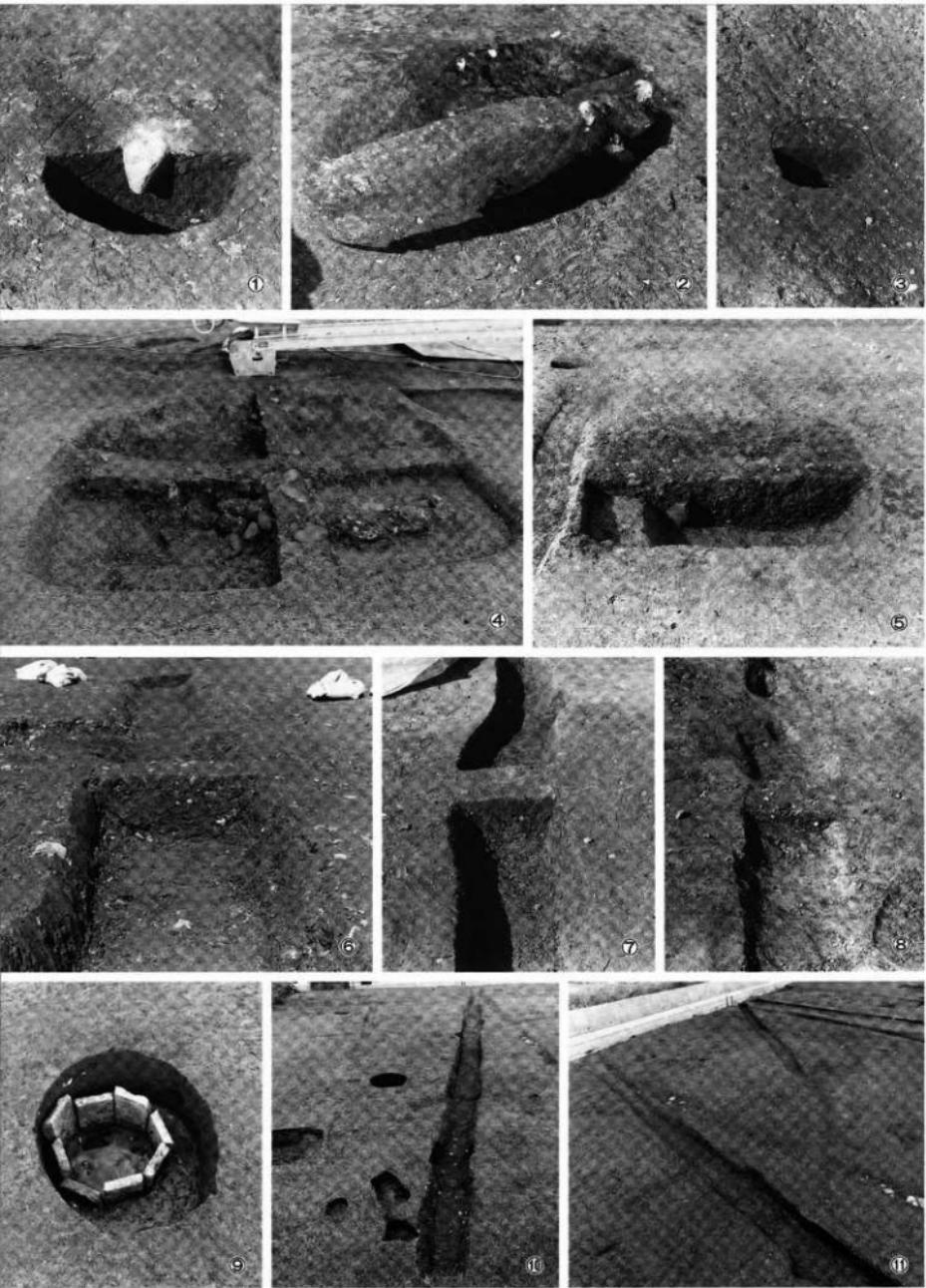
②8・9地区遠景（東から）



図版2 神成遺跡7・8地区全景

①7地区全景（真上から）

②8地区全景（真上から）



図版3 神成遺跡7地区の遺構

- | | | | |
|------------|-------------------|------------|----------------------|
| ①P3（南から） | ②SK14（東から） | ③P2（南から） | ④SK09（南から） |
| ⑤SK01（南から） | ⑥SD02（南から） | ⑦SD06（南から） | ⑧SD08（南から） |
| ⑨SE01完掘状況 | ⑩SD01・02完掘状況（東から） | | ⑪SD02・03・04完掘状況（北から） |



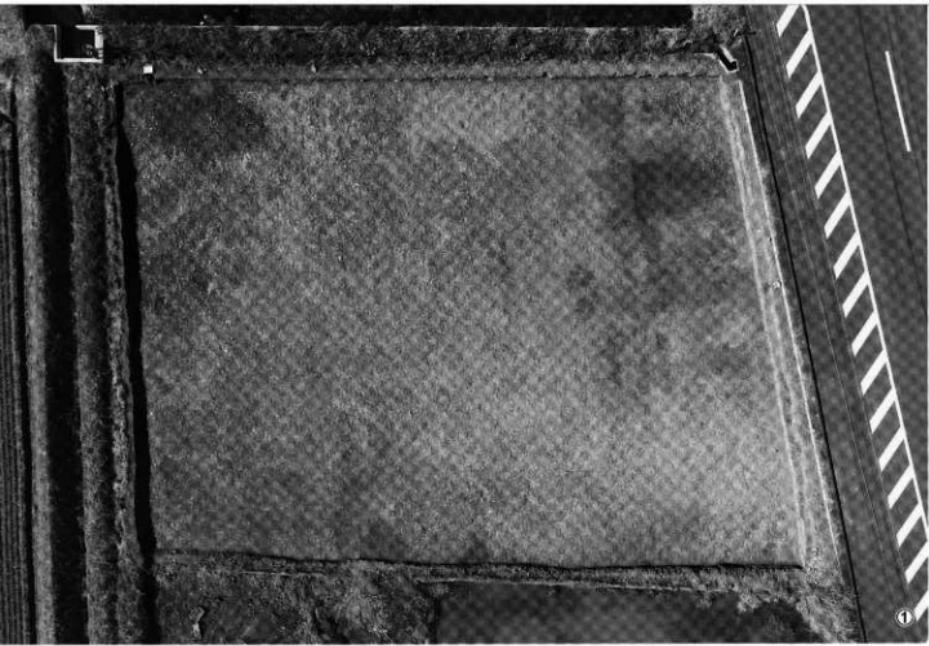
図版4 神成遺跡8地区の遺構

①SD01（南から）
⑤SD01完掘状況
⑨P1（南から）

②SD01（北から）
⑥墓土器出土状況
⑩作業状況

③SD01遺物出土状況
⑦作業状況

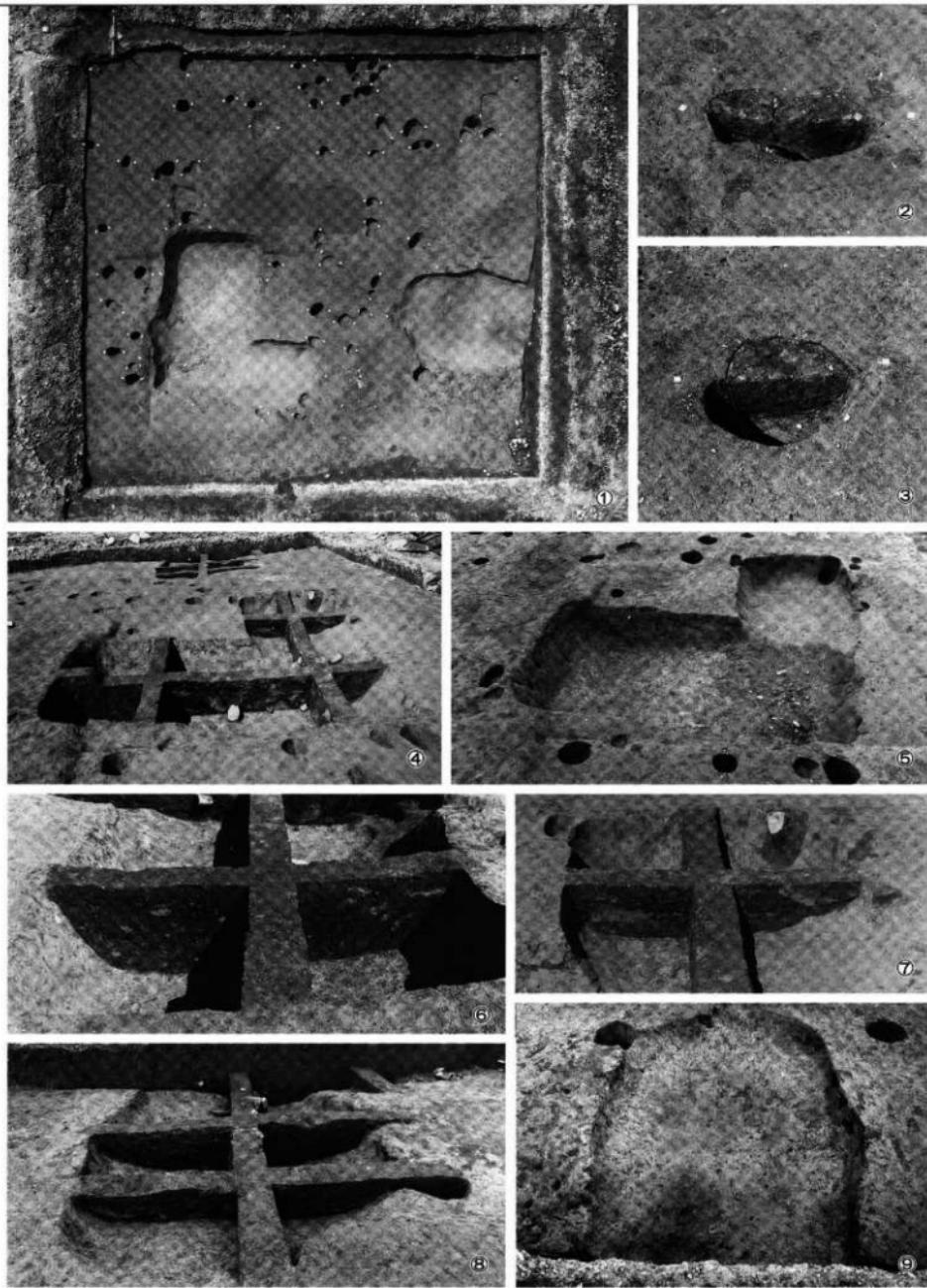
④SD01遺物出土状況
⑧P2（南から）



図版5 神成遺跡9・10地区全景

①9地区（真上から）

②10地区遠景（南から）



図版6 神成遺跡10地区の遺構

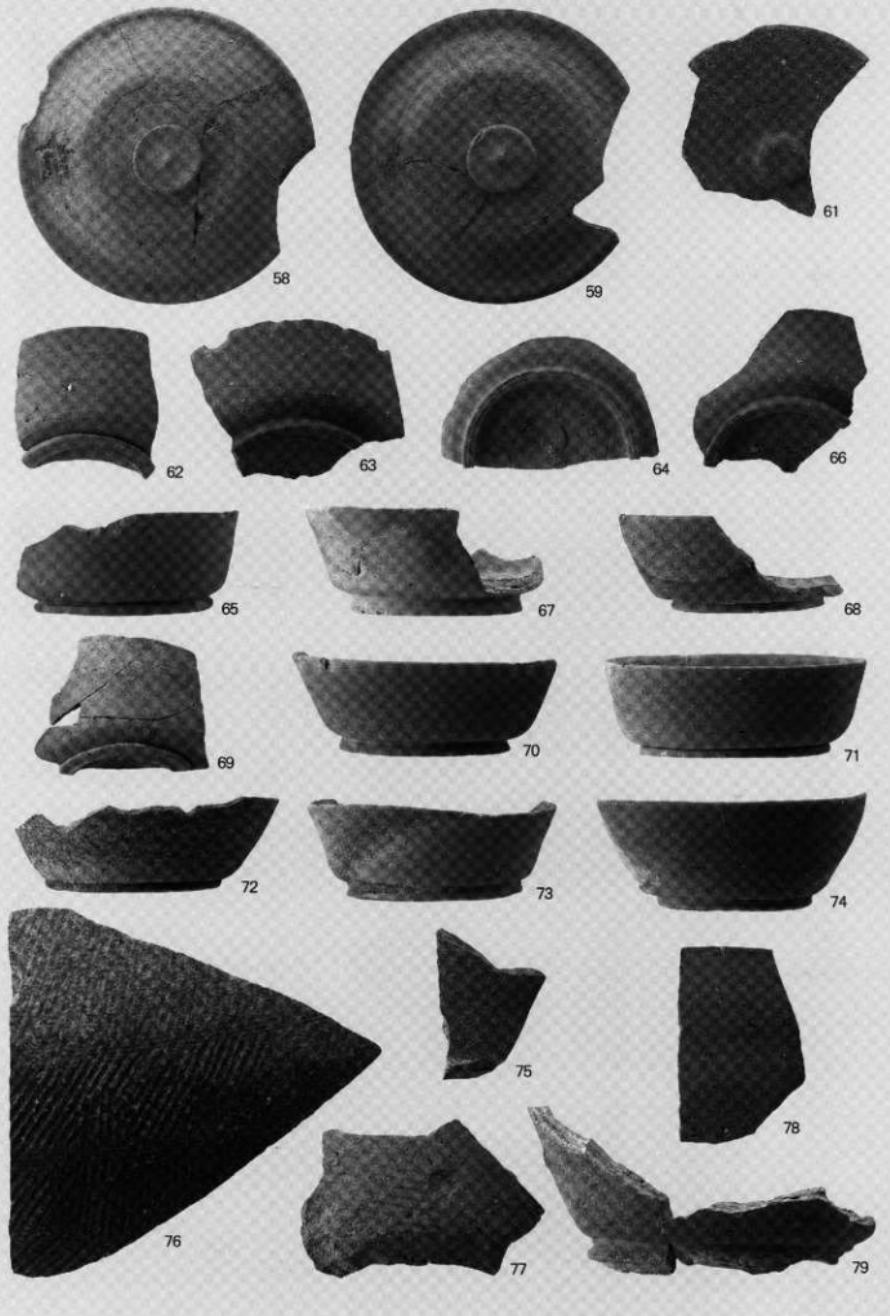
- | | | | |
|-------------------|----------------|------------|---------------|
| ①全景（真上から） | ②P44・45（南から） | ③P66（南から） | ④SX01・02（東から） |
| ⑤SX01・02完掘状況（東から） | | ⑥SX01（南から） | ⑦SX02（東から） |
| ⑧SX03（東から） | ⑨SX03完掘状況（西から） | | |



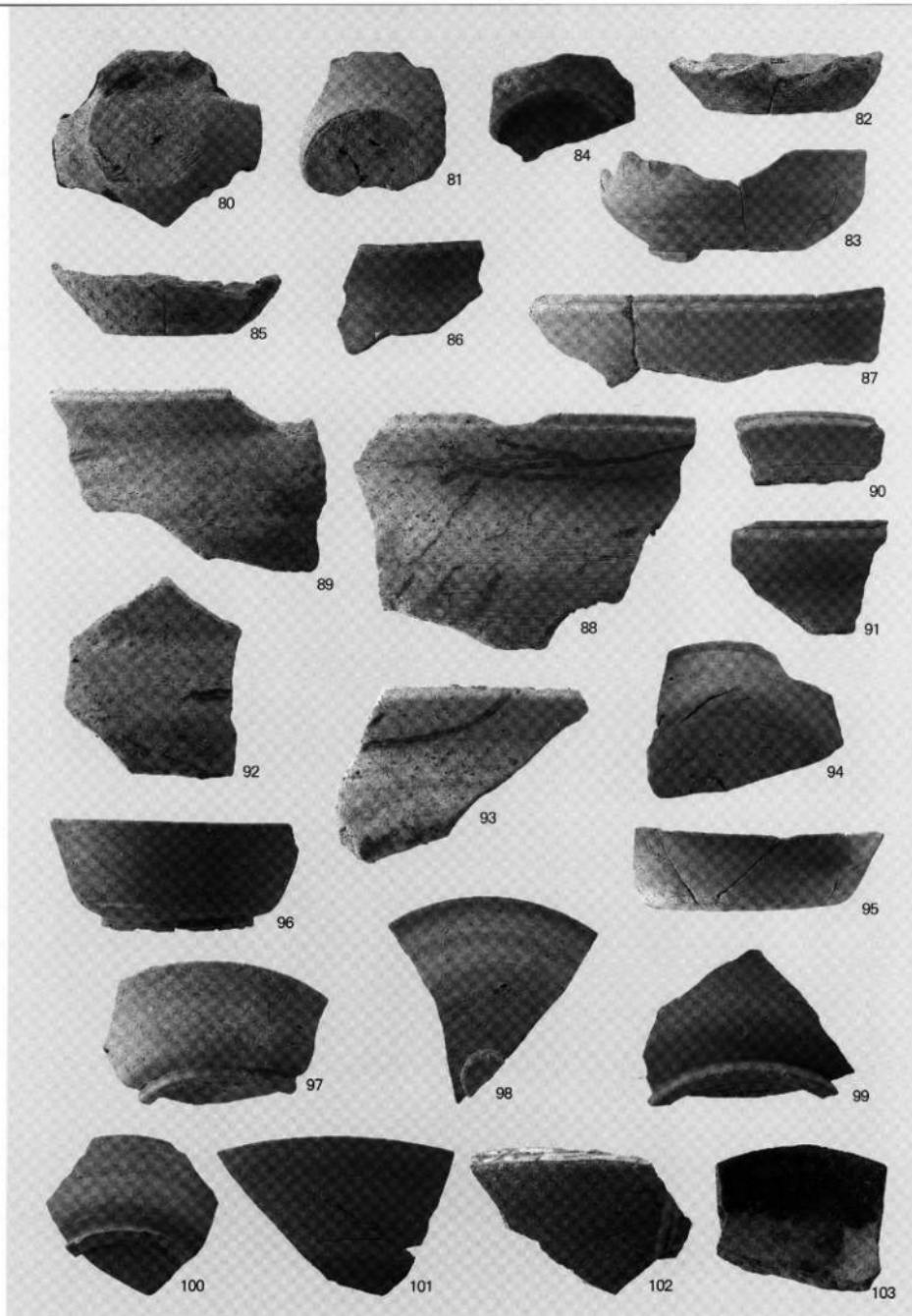
図版7 神成遺跡7・8地区の遺物(1) (S=1:3)



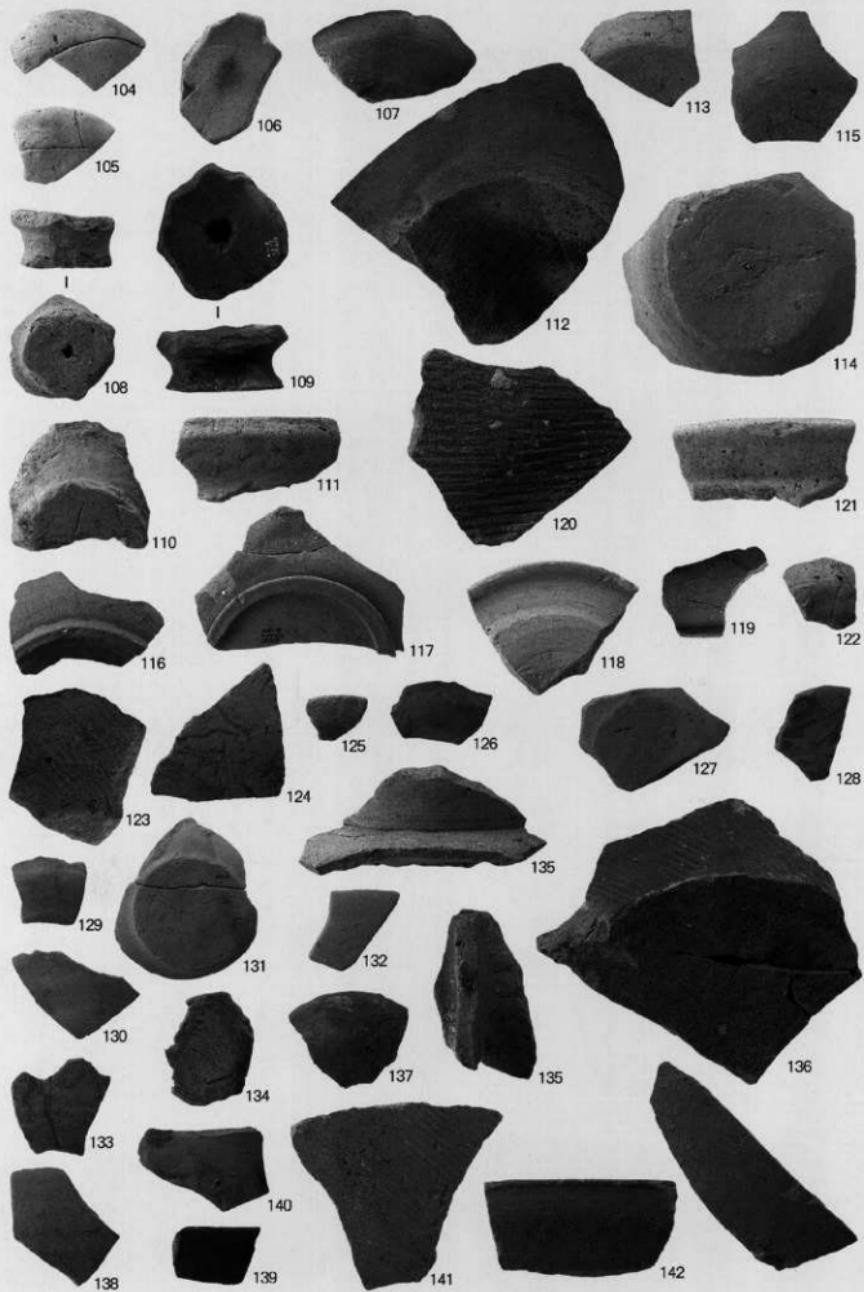
図版8 神成遺跡8地区の遺物(2) (S=1:3)



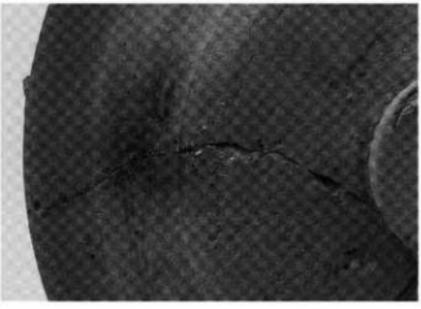
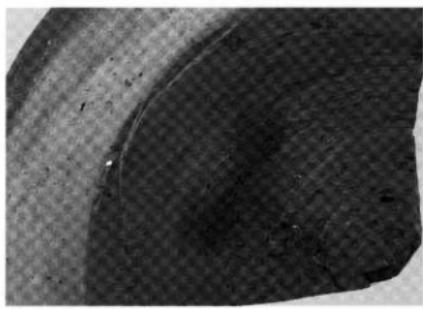
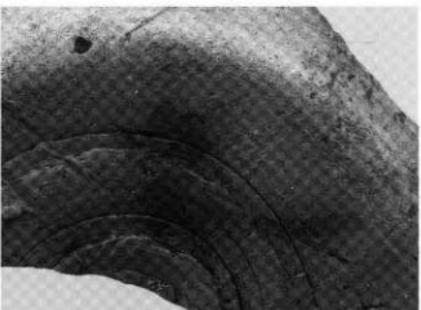
図版9 神成遺跡8地区の遺物(3) (S=1:3)



図版10 神成遺跡8地区の遺物(4) (S=1:3)



図版11 神成遺跡9・10地区の遺物(1) (S=1:3)



図版12 神成遺跡8地区出土の墨書土器(1)



図版13 神成遺跡8地区出土の墨書き器(2)

報告書抄録

ふりがな	とやまけんなんとし かんなりいせきさん							
書名	富山県南砺市 神成遺跡Ⅲ							
副書名	県営ほ場整備事業（北山田北部地区）に伴う埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告（6）							
シリーズ名	南砺市埋蔵文化財調査報告 13							
編著者名	片田 亞紀							
編集機関	南砺市教育委員会							
所在地	〒932-0292 富山県南砺市井波520 TEL (0763) 23-2014							
発行年月日	西暦2006年3月15日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
神成遺跡	富山県 南砺市神成	16210	557	36度33分 35秒	136度54分 45秒	050808 ～ 051104	3,370m ²	県営ほ場 整備事業
所取遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
神成遺跡	集落	古代		柱穴、溝		須恵器、土師器、 墨書き土器		
		中世		柱穴、土坑、溝		中世土師器、珠洲		
		近世		河跡		近世陶器		

県営ほ場整備事業（北山田北部地区）に伴う
埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告（6）

富山県南砺市 神成遺跡Ⅲ

平成18年3月

編集 南砺市教育委員会

発行 南砺市教育委員会

印刷 仙ナカダ印刷

